

シニア CITY カレッジ開講式開催される

期待に胸が膨らむ新入生のみなさん



10月11日（水）9時45分から約2時間半に亘り、シニアCITYカレッジ平成29年度年の開講式が執り行われた。会場は大阪教育大学天王寺キャンパス。濱面代表理事から、「シニアは社会から支えられる時代から支える時代へ。社会



スタッフの紹介

貢献していく為に皆さんのスキルとパワーを発揮してほしい。カレッジで有意義に過ごしてほしい」と挨拶された。続いて大阪教育大学副学長 中西 正人氏が挨拶され、『人生100年と言ってもいい時代、地道な活動が大切であり皆さんの活動の意義が益々高まってくる。今年105歳で亡くなられた医師、日野原 重明氏の言葉「ここまでという限界

はない、頂上はないけど坂はある」、又、昨年101歳で亡くなられたジャーナリスト ものたけじ氏の言葉、「死ぬとき、そこがてっぺん」と言っている』と両氏の言葉を引用しエールを送られた。

休憩をはさんで、大阪市立美術館館長 篠 雅廣氏の記念講演「美術館でわかること」が始まる。

まず、鳥獣戯画をもじって兎を投げ飛ばす蛙らしき絵が映し出された。「これは何だと思いますか」から始まり、現代アートの作品を面白おかしく紹介して受講生を笑わせる。さらに、筒井広道作の『海と少年達』を「一分間観て、この絵の思うところを書きなさい」と静寂の時間。作品の時代背景から作者の思いを感じ取ると言ったことを説明する。まさにこれからの本番の授業の



中西 正人 副学長

様な展開で話が進む。「作者が芸術作品を作り、鑑賞者が多様に解釈し作品の在り方を豊かにする。芸術は自分の人生をうつす鏡であるかも知れない」とも。「この絵は観たことがある。あの時誰とどこで。そして自分はどう生きて来ただろうか？」と。何度も場所を変え受講生に質問を繰り返しながらの講演に、みなさん終始集中を絶やさず。冒頭、「寝る人は構わないから寝て下さい」と言っていたが、寝る人などはいない有意義な記念講演であった。

受講生の皆さんはこの一年間、総合文化科は2年間だが、著名な先生方の講義を聴き、何かをつかみ取って頂きたいものだ。勿論、新しい仲間たちとの交流も深めながら。



篠 雅廣 館長

受講生へのインタビュー

- ・富田林から来たという男性。図書館で知って申し込んだ。まだ仕事もしているが時間もあるので勉強してみたい。
- ・福島から来たという女性。本科で学び目から鱗の快感が忘れられず、魅力的なカリキュラムにわくわくしている。

(広報 中谷)

当日の出席者

理事及びスタッフ：27名、大阪教育大学副学長 中西 正人氏、大阪市立美術館館長 篠 雅廣氏

受講生：*総合文化科：54名(62名) *文学・歴史科Ⅰ：50名(62名) *文学・歴史科Ⅱ：46名(62名)

()内は受講者数 *平均年齢69.3歳(昨年度68.3歳、一昨年度67歳)